

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議は対面、書面開催にかかわらず委員からの意見が少ないように思われるので、事故やヒヤリハット等の報告も入れるなど委員の方の、意見が出しやすい会議の運営の工夫をされては如何でしょうか。	運営推進委員の皆様にも、分かりやすく透明性のある会議にしていくことは当然であるが、具体的に興味を持っていただけるような内容の議題を提供していくことが必要だと考える。	外部評価後も書面開催が継続している。6月開催分より事故・ヒヤリハット報告を行い、その後の経過についても報告している。今後委員様に対する意見書も、「意見があればお願いします」ではなく、「〇〇についてご意見をお願いします」など、閉じられた質問に変更していく予定である。	6ヶ月
2	8	コロナ禍で制限があり、実施できないことも多いが、利用者にとっては貴重な一年一年の歳月なので、写真やネットなどの利用で、昔懐かしいころの記憶にふれる機会が望まれる。	入居者にとって、家族や地域とのつながりが途絶えることは何よりもつらいこと。グループホームが地域密着型であることの意義を鑑みて、感染症対策を十分にしながら、少しずつ、以前のような温かみあふれる地域や家族とのつながりを取り戻していく努力をする。	入居者もワクチン接種が終了するなか、安全対策を講じながら少しずつ、面会なども再開していけたらと考えている。現在館内に写真等をギャラリー風に展示し、皆さんに楽しんでもらっている。家族から写真を提供してもらい展示してはどうかと考えている。	12ヶ月
3	5	利用者の様子や状態を見ながらケアの工夫を常にされていて利用者の安定される様子からその効果の手ごたえを共有された事例を聞かせて貰いましたが、今後は敷地内の玄関扉の施錠についても利用者の安全を考慮しながらも検討されることを期待する。	原則、身体拘束はしない方向でケアをすすめていく。	三原則を満たしていたとしても、身体拘束に関しては本人・家族・スタッフの意見を十分に考慮して、入居者の持つ性格・特性をいかして回避できるならば拘束はしない方向でケアをすすめる。玄関の施錠に関しても安全性を考慮しながら(具体的には見守りの徹底と、他部署への見守りの依頼、またグループホームが居心地の良い場所と感じてもらえるような努力)施錠しない形に持っていけるように努力する。	12ヶ月
4	10	ケアプランのモニタリングにおいて、その話し合いの過程が良く分かるような資料作りが求められる。	今までは担当者にモニタリングをしてもらい、計画作成担当者が精査していく形で実施していたが、会議においてスタッフ全体で共有して最終モニタリングを完成していく。その会議などで出た意見なども文書化していく。	モニタリングは結果だけではなく、その理由付けを的確に文書化して、なぜそのプランである必要があるのか、なぜ継続するのか、終了するのかを明確化していく。会議で共有して、会議での検討内容を議事録化していく。	6ヶ月
5	13	自然災害、感染症の流行にも対応できる、事業継続計画の策定が求められる。	現在作成中であり、グループホームについては特にコロナ等感染症に対する内容、立地条件から土砂災害に重点を置いて作成している。	秋までには完成し、スタッフが共有していく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。